

時代

読む

渡辺 利夫



留学生受け入れ体制の整備を

アジアの高成長は、都市を中心に所得水準と教育水準において高い中産階層を大量に創出した。中産階層は、さらに高い社会的ステータスを求めて、子弟を高等教育に修学させようという志向性をいよいよ強めている。中国の都市中産階層に典型的にみられるように、アジアの「高等教育熱」は文字通り熱気に満ちたものである。他方、国内の高等教育機関は量的にも質的にもなお不十分であり、おのずと海外留学に目が向けられる。

現在、世界の高等教育機関で学ぶ海外留学生の総数は約二百

国内において留学生を待つという消極的な姿勢から、みずから海外に進出して「ワン・ストップ・センター」と呼ばれる、自国の高等教育機関の情報提供に始まり、入学試験、留学後のケア、卒業後の就業斡旋といったまでの一貫したサービスを提供するといった積極的な姿勢への転換である。

「海外留学熱」は好機である。百七十万人に膨れ上がり、そのうち五百四十万人すなわち70%がアジアからの留学生になろうと予測されている。

したものだとい。留学生の高まる大学に入学を許可されるかどうかかわらないという不安の中で学びつけないければならぬ。一言でいって日本留学の「立場」に立とうという真摯な努力は高いのである。

「場」と見立て、国家的な政策として世界各地に留学生受け入れのための拠点を着々と築き、留学生獲得競争で優位な立場を確保しようとしている。ドイツやフランスなどの非英語圏も留學生受け入れのためのアジア拠点の整備に乗り出している。

まず「ワン・ストップ・センター」の設立、次いで留学前の教育の展開が急務である。現地で一定レベル以上の留学生を確保して渡日させることにより、犯罪者となるような留学生を事前に排除し、日本社会の活性化に資する優れた人材を選抜しなければならぬ。

その他、留学前の予備教育、大学分校の設置、情報通信機器を利用した遠隔教育などさまざまな手段を織り交ぜた「オフショア・プログラム」が盛んに試みられている。オーストラリアへの留学生の三十数%がこれらオフショア・プログラムを経験

入学までの期間が長く、希望不可欠である。(拓殖大学学長)